



くるりん パソコン講座

12月3日、10日



第1回目は、デジカメ等の画像編集でした。画像の明るさやコントラスト等、見た目のきれいさの編集や、画像ファイルサイズの変更を行いました。フリーウェアの編集ソフトを使い、デジカメで撮影した画像を、パソコンに取り込む方法や保存方法から始めました。「デジカメの記録メディアを、カードリーダーライターを使って、パソコンに接続する方法が、簡単です。」と、講師の今泉さんは言っていました。OSの異なる（WindowsとMac）パソコンを持参されたので、OSによって編集ソフトの操作方法に若干の違いがあり、迷ったり、悩んだりしながらも使いこなしていました。参加者の林さんは「画像の編集加工は初めてだったが、うまくできた。僕の希望していた、画像をメールで送信することができるように、サイズ変更を覚えられて嬉しかった。」と語っていました。

(田中吉弘)



イベント情報

● 第40回いいまちサロン

- 日時 12月27日(火) 10:00~12:00
- 場所 明科公民館 講堂
- 内容 28年さよならコンサート
出演 Courier(クーリエ):フルート 竹内朱里さん、細野貴美さん ピアノ 川口真衣さん
- 参加費 500円(ケーキ・紅茶付き)
- 主催 明科いいまちつくろうかい!! 共催 明科公民館
- 問い合わせ 明科公民館 TEL 0263-62-4605

● くるりんパソコン講座

- 日時 1月7日(土)、1月21日(土)2回連続で受講して下さい 10:00~11:30
- 場所 市民活動サポートセンター「くるりん広場」
- 内容 デジカメ画像編集(フリーソフトPhotoscapeを使って)
- 参加費 無料
- 定員 パソコンを持参できる方 6名(申込先着順)
- 主催 市民活動サポートセンター
- 問い合わせ 安曇野市市民活動サポートセンター TEL&FAX 82-1922

● くるくるセミナー

- 日時 1月18日(水) 10:00~11:00
- 場所 市民活動サポートセンター「くるりん広場」
- 内容 安曇野市協働のまちづくり出前講座 「安曇野の水資源を次世代へ」
- 参加費 無料
- 参加申し込み 事前に連絡頂けると助かります
- 主催 市民活動サポートセンター
- 問い合わせ 安曇野市市民活動サポートセンター TEL&FAX 82-1922

安曇野市市民活動サポートセンター

開館時間 午前9時~午後5時
 休館日 毎週日曜日
 年末年始 12月29日~1月3日
 住所 〒399-8303 安曇野市穂高 6658 番地
 電話/FAX 0263-82-1922
 E-mail azumino-sk@bz03.plala.or.jp
 URL http://azumino-sk.net/



くるりん通信

12月号

No.012
2016.12.14

〒399-8303 安曇野市穂高 6658 番地 市民活動サポートセンター 安曇野市役所市民生活部地域づくり課 発行

パブリックコメントを実施しています

くるりん広場はパブリックコメントを実施している計画・条例(案)の閲覧場所です

パブリックコメント手続きは市民の皆様の意見を聞いて、それを考慮しながら政策等の意思決定を行う仕組みで、市民が行政の施策に直接意見を述べることができる機会です。センターまで足を運んでいただき、閲覧の上ご意見をお寄せください。

第3次安曇野市交通安全計画(案)

交通安全に関する各種の対策は交通安全対策基本法に基づき策定される国や県、市町村の交通安全計画に基づくものです。本市の来年度から5年間に講ずる交通安全対策を定めた第3次安曇野市交通安全計画(案)に対して、意見などを募集しています。

◆ 閲覧及び募集期間

12月7日(水)~1月5日(木)

市水環境基本計画(案)

豊かな地下水資源を次世代に引き継ぐための方向性を定める「市水環境基本計画」(案)とこれを実現するための「市水環境行動計画」(案)に対して、意見などを募集しています。

◆ 閲覧及び募集期間

12月7日(水)~1月6日(金)

安曇野市水道事業条例改正(案)

平成29年4月から安曇野市水道事業(豊科地域・三郷地域)、穂高水道事業、堀金水道事業、明科水道事業の4つの水道事業を統合して安曇野市水道事業として水道事業運営を行います。これにあたり、安曇野市水道事業の設置に関する条例、分担金の徴収に関する条例及び給水条例の3つの条例改正案に対して、意見などを募集しています。

◆ 閲覧及び募集期間

12月7日(水)~1月5日(木)

安曇野市自治基本条例(案)

自治の基本理念、市政運営の基本原則等を定めた安曇野市自治基本条例の策定を進めて来ましたが、検討委員会等での協議を経てまとまった条例案に対して、意見などを募集しています。

◆ 閲覧及び募集期間

12月15日(木)~1月13日(金)

詳細は広報「あづみの」No.240、市ホームページなどで確認してください。

パブリックコメント手続とは

市の基本的な政策等の形成過程において、その政策に関する計画等の趣旨、内容等必要な事項を公表し、広く市民等から意見、情報、提言等(以下「意見等」という。)を募集し、提出された意見等を考慮して政策等の意思決定を行うとともに、これらに対しての市の考え方を公表するまでの一連の手続をいう。

(安曇野市パブリックコメント手続実施要綱より抜粋)



レポート

■ 繊細な表現で聴衆を魅了

11/27 創立10周年記念演奏会

■ 主催 とよしな女声合唱団 ■ 場所 豊科公民館



とよしな女声合唱団は実行委員を選任して10周年記念演奏会を盛大に開催しました。

開催に当たり、過去に助成を受けた経験のある団員から「つながりひろがる地域づくり事業補助金」に応募する提案があり、支援を受けて実施されました。

ステージは愛唱歌から始まり、中山晋平曲集、東日本大震災を契機に作られた「つぶて

ソング第1集」から選ばれた曲、全員合唱、豊科北小学校合唱部の招待演奏もあり充実した内容でした。小学生と合同での安曇野市歌「水と緑と光の郷」合唱は会場いっぱいに歌声が力強く響きました。最終ステージでは安曇野市出身の作曲家飯沼信義さんの作品が5曲演奏され、女声合唱らしい繊細な表現で歌い上げられ、聴衆は思わず引き込まれていました。地元になじみの深い作曲家の作品、安曇野に因む曲を多く取り上げて10周年にかけの意気込みを感じさせる演奏会でした。

10年という長い間団の活動を継続できたのは「面倒なことともいわず引き受ける団員のチームワークの賜物であり、指導者の山本紘子さんの人柄と熱意があればこそ」と実行委員長草間昭子さんと副実行委員長の安藤登志子さんが感謝の気持ちを語っていたのが印象的でした。

(今泉一)

■ 新体制で例年にない賑わい

12/2~12/4 安曇野神竹灯

■ 主催 安曇野神竹灯実行委員会 ■ 場所 穂高神社

今回で6年目となる「安曇野神竹灯(かみあかり)」は、例年にない賑わいを見せていました。家族連れやカップルなど点火ライターを手にした大勢の協力者が、神殿から鳴り響く太鼓の合図で一斉に点火し始め、夕暮れとともに8000本の竹灯籠によって幻想的な世界が作り出されました。



このイベントが最初に開催されたのは平成23年、市内のホテルやペンションなどの有志8軒からなる「安曇野で暮らすように泊まる実行委員会(通称:くらとま)」が計画、大分県竹田市の「たけた竹灯籠・竹楽」で使用した1000本の竹筒を譲り受けて開催したのが始まり。以後5年間は「くらとま」によって運営されてきましたが、より多くの人々や地域に関わってほしいと、市や商工会・観光協会をはじめ市民団体等の協力を得て今回初めて「安曇野神竹灯実行委員会」を組織し開催しました。今回の賑わいはこうした努力が報われたものと言えます。

実行委員の衛藤悦郎さんは、「市内の宿泊施設がまとまるためのプロジェクトとして始めたが、回を重ねるごとに知名度も上がり竹灯籠の本数も増えてきた。竹田市では3日間で12万人を集客する大イベントになっており、実行委員会が組織された今回を機に、地域住民や商店の皆さんのご理解と協力をいただきながら、街中に出るなど回遊性を高めて地域活性化に役立つイベントに育てていきたい。」と抱負を語ってくれました。

(川崎克之)

■ みんなで光城山を守ろう!

11/26 光城山1000人SAKURAプロジェクト 植栽

■ 主催 光城山1000人SAKURAプロジェクト ■ 場所 光城山

桜の名所として名高い光城山では、地元区の小さいお子さんからご高齢の方まで約80名のみなさんにより、60本の桜の苗木を植栽しました。

「昇り竜」として親しまれている光城山の桜を後世に残していくため、平成26年に設立した「光城山1000人SAKURAプロジェクト」では、老木化が進む光城山の桜の補植、光城山の歴史・文化の伝承や自然環境の保全活動に取り組んでいます。

市民と市との協働による本プロジェクトでは、活動過程において多くの方が関り、できることを、できる方が、役割分担をして主体的に行動していくことを大切にしています。

鹿による食害対策の防護柵作成や、人力による現地までの資材運搬など、地元区から、多くの方の協力により、様々な課題を解決してきました。

市民のみなさんにとって身近な里山を、これからもみんなの手で末永く守り育てていきたいものです。



くるりん講座

11月19日

活動資金や人材を応援してもらおう

寄付の応援を得たい、プロボノを活用したいという皆様に



講師にNPO法人長野県みらい基金理事長の高橋潤さんを迎えてお話しを伺いました。

平成25年から運営を始めた寄付サイト「みらいベース」。寄付メニューの増加や認知度アップなどにより、開設初年度寄付額、約500万円だったものが、平成27年度には年間1000万円を超え、助成団体も65件と大幅に増やすことができ、市民活動の充実が図られているとのことでした。

NPO法人子育て支援ばおばおの小口理事長からは、このみらい基金の4種類の助成メニューを活用し「開館10周年記念行事」などを開催、備品の充実もでき、助成金のありがたさを感じたという事例報告がありました。

また、みらい基金では、個人や団体が持っているスキルを登録し、必要な団体と繋ぎ活用してもらおうという、「プロボノベース」を新たに立ち上げ、多くの登録利用を呼び掛けています。個人のスキルを提供したり、逆にお借りしたり、ぜひ、「長野県プロボノベース」で検索し登録してみてください。

様々な助成制度を知って、チャンスを逃さず大いに活用したいものです。

「プロボノ」…なんだか、聞きなれないワードです。プロボノというのは、ラテン語で「公共善のために」を意味する pro bono publico の略で、専門的な知識・技能を活用して、公的な活動団体を支援するボランティア活動のことだそうです。アメリカで生まれた仕組みで、今では日本全国各地に広まっています。

(磯野康子)